2025 年 8 月 1 日発行 No.834（毎月1回1日発行）2015 年4月22日第三種郵便物承認 ISSN1344-5510

全国手をつなぐ
育成会連合会

元気の出る情報・交流誌

手をつなぐ

特集 広げよう、
文化と芸術の輪を。

今月の問題 | 入所施設からの地域生活移行は進むのか

ひびき | 佐木理人「毎日新聞」論説委員兼「点字毎日」編集次長（専門記者）

2025
8月
No.834

CONTENTS

手をつなぐ

2025.8［No.834］

一つ屋根の下でくらすせんせいと「わたしの自立」を考える［第11回］
「分け分け」の気持ち　Aju・永浜明子

02 わたしたちも言いたい
僕の好きなこと　善川正崇

05 知りたい！あなたの見ている・感じている世界［第17回］
人と動物と物と　竹中 均

07 特集 広げよう、文化と芸術の輪を。

障害のある人の文化芸術活動

08 ・共生社会をつくり、世界をつなぐ障害者の文化芸術活動　又村あおい
10 ・台湾と日本 文化芸術でつながる心　林 筱婷
12 ・映画づくりで広がるつながりと経験
～Bus Stop Filmsとのワークショップとトークショーを終えて～　水戸川真由美

国内での文化芸術活動事例

14 ・日常の支援を大切に地域で生きる　白岩髙子
16 ・芸術文化を誰もが楽しめる地域に　田中真実

もっと文化・芸術を楽しむために

18 ・“はじめて美術館にいきます。”という気持ちをサポートするツール「Social Story（ソーシャルストーリー）」とは？　鈴木智香子
20 ・暮らしをいろどる　植松みさご

22 広がる表現の輪 ～みんなの体験談～ アート体験、楽しんでます！

インクルーシブな社会に向けて

24 ・大阪・関西万博における出展の概要
26 ・小さき人々の声を大きな場で
～日本博そして大阪関西万国博覧会に向けて～　牧野 望

29 今月のオススメ

30 ひびき
当事者だからこそ書ける記事がある　佐木理人

33 こつこつ進めば大丈夫。～思いが届くコミュニケーション～［第2回］
思い通りにならない体　認定NPO法人こつこつ

34 今月の問題
入所施設からの地域生活移行は進むのか

38 けんりって何？
夢を閉ざさない　障害のある俳優が羽ばたく『手引き』誕生まで　藤井清美

40 くらしを支える福祉の制度［第54回］
意思決定支援について　その7　又村あおい

42 中央の動き
「障害者支援施設における支援者のための地域移行等の意向確認マニュアル」公表（その2）

45 ニュースのじかん

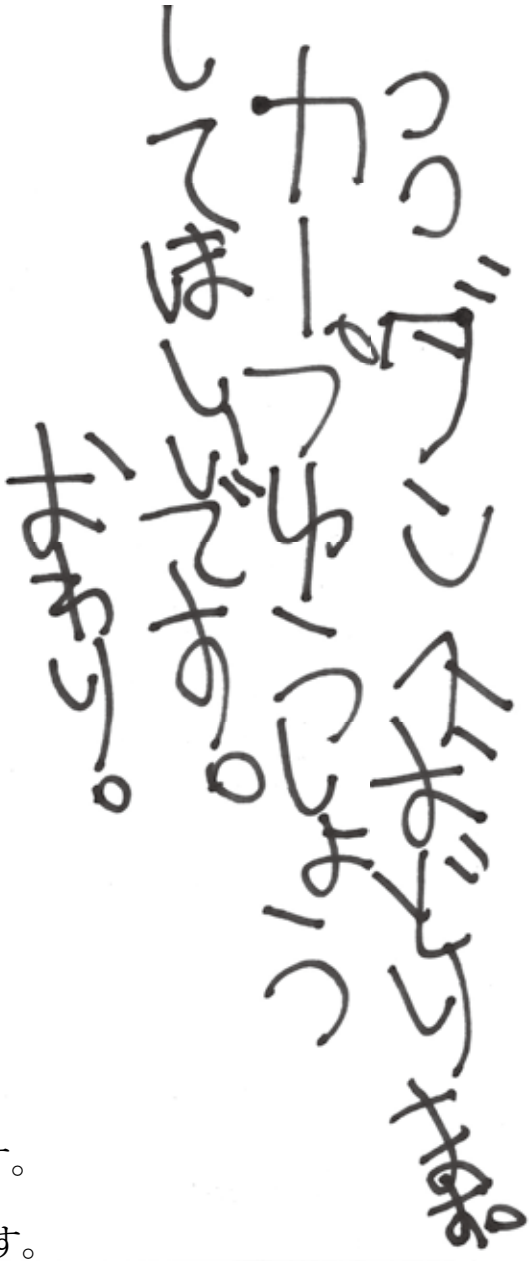
ココいきたい！［第1回］
アウトドア体験ができるキャンプ施設　プライベース河口湖

表紙絵「黒でめちゃん!」

■川添貴也（かわぞえ・たかや）
14歳
■高知県高知市
■作者からのひとこと
僕は黒出目金が大好きです。赤ちゃんだった頃、お兄ちゃんが金魚を飼っていて僕も大好きになりました。夏には縁日で沢山金魚すくいをします。今からワクワクしています。夏のプールは金魚みたいにプールで泳ぎ回ります!

僕の好きなこと

ぼくはひろしまカープの菊池選手がすきです。
マツダスタジアムにいきます。
カープたくさんおうえんします。
カープうどんおすびとむさしたべます。
カープうたいます。



僕の好きなこと

広島県　善川正崇

ぼくは　ひろしまカープが好きです。

マツダスタジアムにいきます。

カープたくさんおうえんします。

カープうどん、むすびとむさし※たべます。

カープうたいます。ＣＣダンスおどります。

カープゆうしょうしてほしいです。

おわり。

※マツダスタジアムにある弁当の店。

「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。
生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。

広げよう 文化と芸術の輪を。

表現すること、感じること、そして分かち合うこと――。
今号では、障害のある人たちの文化芸術活動をテーマに、その創造の力と広がりに注目します。
アートや音楽、舞台表現などを通じて生まれる自己表現と繋がりのかたち、
地域や社会を巻き込んだ取り組みや支援の実例を紹介しながら、
「文化と芸術」が誰にとってもひらかれたものであるために必要な視点を探ります。

イラストレーション　高村あゆみ

共生社会をつくり、世界をつなぐ 障害者の文化芸術活動

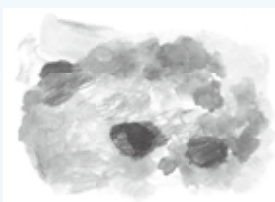
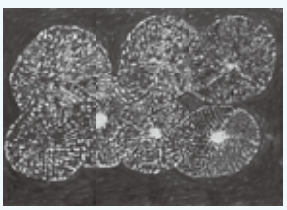
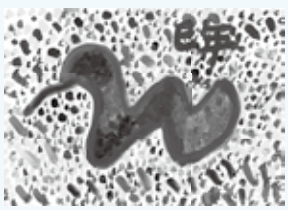
全国手をつなぐ育成会連合会　常務理事　又村あおい

共生社会とは、障害の有無に関係なく相互に人格と個性を尊重してともに生きる社会を指しますが、この共生社会を実現していく際に重要なアイテムになりうるのが、文化芸術です。

従来から視覚障害のある人の音楽や聴覚障害のある人の写真、肢体不自由の人の絵画といった障害者の文化芸術活動は高く評価されてきましたが、近年では知的・発達障害のある人（以下、知的障害者）が創造する自由な発想による芸術作為が「アール・ブリュット（生の芸術）」「アウトサイダーアート」などと呼ばれ、注目を集めています。

今月号の特集では、知的障害者の文化芸術活動を中心に、取り組みの意義や今後の展望などを掘り下げていきたいと思います。

取り組みの広がり

わが国には、世界的にも非常に先駆的な障害者の文化芸術活動を支援する法律（障害者文化芸術活動推進法）があり、都道府県および広域のブロック単位で支援センターが設置されているほか、全国的な連携を推進するための「連携事務局」（16～17ページ参照）が指定されています。

各支援センターでは、障害者が文化芸術に親しむため、創作や鑑賞の場を設定するだけでなく、文化芸術分野における合理的配慮を広めるための研修会なども開催しています。各都道府県では「全国障害者芸術・文化祭」をはじめとする障害者の文化芸術に関するイベントを開催しており、障害者が出演する舞台公演や